

【科目名】 金融機関論	【単位数】 2 単位	【科目区分】 専門科目、展開科目
【担当者】 國方 明 Kunikata Akira	【オフィス・アワー】 授業内で伝えます。	【授業の方法】 講義
【科目の概要】 <p>本科目では、金融機関とその行動を、主にミクロ経済学の理論を使って理解します。ただし時間が限られているので、金融機関のうち主に銀行を取り上げます。本科目でいう「銀行」は、預金取扱金融機関全般を指します。つまり本科目における「銀行」は、〇〇銀行という名前で営業する株式会社だけでなく、信用金庫や信用組合なども含みます。</p> <p>本科目は以下の3つのパーツに分かれます：</p> <p>まずパート1では、金融機関の制度的・歴史的側面を紹介します。たとえば日本では金融機関が銀行業、証券業や保険業などの業態に分かれ、政府などが相互参入を厳しく規制してきました。また銀行業に限定すると、株式会社形態と協同組織形態の2つに大きく分かれ、前者は更に細かく都市銀行、地方銀行、第二地方銀行と信託銀行などに分かれます。また制度を理解するためには、その制度が形成される過程つまり歴史を学ぶことが有益です。</p> <p>次にパート2では、ミクロ経済学の理論を応用して、銀行の存在意義、銀行行動、複数銀行が構成するシステムを議論します。ミクロ経済学の発展に伴い、銀行にかかわる経済理論の主流が、時代ごとによって変わっています。具体的には、(a) 1970年代までは生産者理論の応用が、(b) 1980年代以降では「情報の経済学」や「不完備契約の理論」の応用が、それぞれ主流になってきました。</p> <p>最後にパート3で、銀行のリスク管理を教えます。</p>		
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 <p>まず本科目の内容は、金融経済学Ⅰと金融経済学Ⅱの金融機関に関する部分を、より高度にしたものです。</p> <p>次にファイナンス理論で、派生商品というリスク管理手法を学びました。本科目パート3で、リスク管理手法を金融機関に応用します。</p> <p>【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 金融機関の役割やその行動を、これまで学んできた経済学の知識を使って理解できるようになると期待します。</p>		
【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】 最終目標： ミクロ経済学の理論を使って、金融機関の役割やその行動を適切に理解できる。 中間目標： <ul style="list-style-type: none"> ● 金融機関の業務を理解する。 ● 銀行のパフォーマンスを評価できる。 ● ミクロ経済学の理論を金融機関へ応用するために、どのような工夫が必要なのかを説明できる。 ● 銀行のリスク管理手法を理解する。 		
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 2023年度の授業評価アンケートでは、まずまず高い評価をいただきました。2024年度でも引き続き高い評価をいただけるように努めます。		
【教科書】 本科目では教科書を使用せず、ハンドアウト(俗に言うプリント)を使って講義を進めます。下記参考書に基づいてハンドアウトを作成しています。		
【指定図書】 該当無し。		
【参考書】 参考書1: 内田浩史『金融 [新版]』有斐閣、2024年(新品を購入可能。シラバス作成時点で、青森公立大学図書館には所蔵されていません) 参考書2: 茶野 努・安田行宏編著『基礎から理解する ERM』中央経済社、2020年(新品を購入可能。青森公立大学図書館に所蔵済み) 参考書3: 中島真志『入門 企業金融論』東洋経済新報社、2015年(新品を購入可能。青森公立大学図書館に所蔵済み) 参考書4: 福田慎一『金融論[新版]』有斐閣、2020年(新品を購入可能。青森公立大学図書館に所蔵済み) 参考書5: 村瀬英彰『シリーズ新エコノミクス 金融論 第2版』日本評論社、2016年(新品を購入可能。青森公立大学図書館に所蔵済み)		

【前提科目】

ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、ゲーム論、金融経済学Ⅰ、金融経済学Ⅱおよびファイナンス理論

上記 6 科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。ただし該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)

次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。

(ア) 第 1 回小テスト。択一式です。

(イ) 第 2 回小テスト。択一式です。

【評価の基準及びスケール】

〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。

A:80%以上。B:70%以上 80%未満。C:60%以上 70%未満。D:50%以上 60%未満。F:50%未満。

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

- 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。
- 金融経済学Ⅰ、金融経済学Ⅱ、ファイナンス理論などに基づく、かなり高度な理論を本科目で取り上げます。これら科目の一部または全部を履修しなかった人、またはこれら科目の一部または全部で D 以下の評価を得た人は本科目で相当苦勞するでしょう。該当する人は、本科目を履修するか否かを十分考えてください。
- 担当教員が遠隔地にいます。このため、たとえば遠隔授業の実施または集中講義期間における開講などの運営をとる可能性があります。学内掲示などに従ってください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください)。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。

【実務経歴】

公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、ミクロ経済学の理論を使って、銀行など金融機関の役割やその行動を理解する授業です。

授業スケジュール

(履修者の理解度、新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、変更する可能性があります。もし、変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート 1 ガイダンスと金融機関の役割</p> <p>内 容: 金融経済学Ⅰで教えた直接金融と間接金融を手掛かりにして、金融機関の役割を復習します。</p> <p>参考書 1 第 8 章～第 10 章。参考書 4 第 1 章</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート 1 金融機関の分類</p> <p>内 容: わが国金融機関の分類を学びます。</p> <p>参考書 1 第 8 章～第 10 章</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行業と銀行政策の歴史</p> <p>内 容: わが国銀行業の歴史と、銀行に対する政策の歴史を学びます。</p> <p>参考書 該当無し。</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行の業務(1) 業務の分類</p> <p>内 容: 銀行法という法律に、銀行の業務にかかわる定めがあります。まず法律上の業務を分類します。次に預金の種類と貸出の種類を学びます。</p> <p>参考書 1 第 8 章。参考書 3 第 5 章。参考書 4 第 1 章</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行の業務(2) 貸出に関する専門用語、銀行組織</p> <p>内 容: まず貸出に関する専門用語を学びます。次に銀行の組織を学びます。</p> <p>参考書 3 第 5 章と第 7 章</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行の財務諸表と財務指標</p> <p>内 容: 銀行の財務諸表と、財務指標を学びます。</p> <p>参考書 1 第 8 章</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(a) 銀行行動の理論、貸出市場</p> <p>内 容:まずミクロ経済学の生産者理論を応用して、確実性下における銀行行動の理論を学びます。次にこの理論に基づいて貸出市場を図示します。最後に貸出利率の上限規制の効果を議論します。</p> <p>参考書4 第5章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択①</p> <p>内 容:借り手企業の資金調達手段には、銀行借入以外に、社債発行や新株発行などがあります。しかし実際には、銀行借入が主な資金調達手段になっています。そこで「銀行借入には、他の資金調達手段にはない特殊性があるのではないか?」という疑問が浮かびます。</p> <p>第8回と第9回では、最終的貸し手が最終的借り手に直接資金を貸す状況を取り上げます。この直接的な貸し借りは、さまざまな要因によって阻害されます。第8回では、逆選択という阻害要因を学びます。</p> <p>参考書1 第4章。参考書4 第5章と第6章。参考書5 第2章、第4章と第5章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択②</p> <p>内 容:逆選択が存在するときの貸出市場を学びます。</p> <p>参考書4 第5章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 阻害要因を軽減するための社会的工夫と銀行</p> <p>内 容: 逆選択など阻害要因を軽減するための社会的工夫を学びます。この工夫と、銀行(貸し手側)の役割とを関連付けます。</p> <p>参考書1 第4章。参考書4 第5章と第6章。参考書5 第2章、第4章と第5章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 銀行のガバナンスと銀行への公的介入</p> <p>内 容:銀行も民間企業の一種です。そこで銀行(借り手側)と、預金者など利害関係者との間で、逆選択など阻害要因が生じるかもしれません。この阻害要因を取り除くために、銀行や銀行経営者の規律付けが重要な論点になります。第11回では、銀行やその経営者を規律付ける工夫を学びます。。</p> <p>参考書1 第14章。参考書4 第6章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスクとその計測</p> <p>内 容:第7回～第11回の議論で、リスクが重要な役割を果たしました。リスクとその管理は、銀行の利害関係者にとって一大関心事です。そこで第12回～第14回では、リスクとその管理を学びます。</p> <p>第12回では、銀行がどのようなリスクに直面しているかを学びます。</p> <p>参考書1 第8章。参考書2 第1章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスク管理手法</p> <p>内 容:銀行のリスク計測・管理手法を学びます。</p> <p>参考書2 第4章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート3 地域銀行におけるリスク管理</p> <p>内 容:地域銀行特有のリスクとその管理を学びます。</p> <p>参考書2 第6章</p>
第15回	<p>まとめと振り返り</p> <p>内 容: 第14回までの授業内容をまとめて振り返ります。</p>
試 験	<p>期末試験と期末レポート、どちらも実施しません。</p>